

令和5年度前期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末に学生に向けて「授業改善に資するアンケート」を実施している。この「授業改善に資するアンケート」の結果に対する所見、および、教育改善のための有益なコメントや要望等を授業担当教員から「授業改善メモ」として提出してもらい、内容をとりまとめてホームページ上に公開している。

以下、令和5年度前期の授業に対して提出された授業改善メモを

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

に分類し紹介する。なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

初年次セミナー I

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 大部分の受講生が「30分から1時間」と答えており、ごく一部で「3時間以上」としている。授業中の様子を見ても、一部の学生がグループを牽引していることが見て取れる。
- ・ ほぼ毎回の講義で予習・復習を促す課題などがあったが、行わなくてもペナルティーがないとのことで、学生の自主性に任されており学生間での差が大きかった。
- ・ 少ないように感じるが、学習時間だけでなく、普段から「考える」ことをしてきたことが最終プレゼンテーションや提出物からわかる。
- ・ 「30分未満」が24%程度でほぼ例年通りであった。本講義では事前学習、事後学習が設定されていることから、ある程度学習時間は確保されていると思われる。
- ・ 「30分未満」が45%程度で昨年度より学習時間が大幅に減少している。レポート等はほぼ昨年度と同等なため、理由は不明である。
- ・ グループ活動における貢献度に個人差があることについては、現状で不満が出ていないため、学生の自主性を尊重したい。
- ・ 事前事後学習の課題だけでなく、最終プレゼンに向けた自身の準備にも取り組む工夫が必要か？
- ・ 小テストを自己開発する等により、早めに身につけておくべき重要なスキルを追加で教えるようにしている。その結果、授業外学習時間が長くなっているのかもしれない。
- ・ 振り返りによる復習事項に時間をかけることも必要な時があるが、基本、事前学習課題の取り組みに重点を置いていることを確認していきたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・少々教卓にとどまりすぎた。もう少し巡回する必要性を感じた。
- ・多くの学生が学習効果を「十分得られた」、それ以外の学生も「おおむね得られた」と答えており、自由記述からも学習効果への満足度は高かった。
- ・学習効果は、「問い」と「探求」を重視してデザインした。学生から「講義自体が『問い』と『探求』を意識したもので、ありふれた内容ではなく学生にとってなじみのある内容から論が展開されていて共感しやすかった」などのコメントがあったことや、全体的に良い評価であることを踏まえると、学生にとっては明確に伝わったのではないかと考えられる。学生の評価も平均からやや良い程度なので、今後もこのデザインを継続・発展させていきたい。
- ・初年次セミナーⅠは全学部の学生が行うので、高校までどのような科目を履修していたか経験していたかで違いがあり、学生間での差があると思う。
- ・グループ学習の評判が悪い。
- ・「十分得られた」(32%)、「おおむね得られた」(65%)で合計して97%と高いことから、すべての受講生は学習成果を実感できたものと思われる。しかし昨年度(100%)よりは低下してしまった。
- ・プレゼンテーションの形式よりは、「問い」と「探求」という言葉を使いながら、内容にフォーカスすることと、どの学部でも必要な能力であることを重視して伝えた。
- ・初年次セミナーの学習目的や目標をしっかりと伝え、引き続き学習意欲の維持をサポートしたい。
- ・班編成に不満があるようだが、自由に班を作らせると学科で固まる傾向が強い。
- ・成果として何か具体的なことができた、というはっきり自覚できる様な課題設定が必要かもしれない。
- ・大学での学びの基本的スキルを日常の他の学び方に広く確認・応用・発展させていくことを促していきたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・回答からは自主的な考察にかなり努力したと感じていることが伺え、授業中の活動状況からも、自分たちなりの考察を試みていたと感じられた。
- ・中間プレゼンの回を後ろに動かし、オンデマンドを併用するなどして、できるだけ学生がプレゼンテーションの準備に取り組めるようにした。一方で、やはり時間が不足するというコメントはあった。
- ・グループワークと個人ワークがあり、グループで引っ張ってくれる人がいると個人ワークをしてこない学生もいた。
- ・アンケートには反映されなかったものの、グループ間で学習意欲に大きな差が出ていた。初回やその次の回での授業でうまく意欲付けしてあげないと、その後の最終回までの学習態度に大きく影響してくるよう感じた。
- ・グループでの議論中心の構成であるので、十分効果を上げていると考える。

- ・教員自身は考察を促すヒントなどを与え問題を投げかけたつもりだが、一部の学生がそれらの意図を理解できず、自主的な考察・取り組みを実感できていない可能性がある。
- ・前期は具体のテーマにチームで取り掛かることが求められたが、個々のメンバーがそれぞれの役割を果たす際にアカデミック・スキルズをどのように応用できたのかについて、もう一步踏み込んだ振り返りができないものかと思う。
- ・発言能力、協働能力を高められるように授業デザインを工夫している。
- ・正直なところ、プレゼンまでの準備時間に関してはどうしようもないと感じている。昨年度よりは余裕があったが、時間がないなりに学生の成果は良くなっていると感じる。与えられた環境でいかに成果を発揮するか、と言ったところに目を向けてもらえるようなデザインを目指したい。
- ・時間的な拘束もあるが、毎年、全グループに対しできるだけ時間をとって目配りをしてやる必要があると感じる。
- ・初回の授業や第2回目までの授業で、特に初年次セミナーの目的を明確に伝え、学習意欲の維持を意識できるよう働きかけを工夫したい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・グループ活動は概ね好評だったが、逆にグループ外の受講生との交流・活動の機会がなかったという意見があった。
- ・少数であるが、理系であるがゆえに授業の必要性を全く感じず、授業外の学習で時間を取られることが苦痛であったとの意見があった。
- ・他の学生の意見を取り入れるなど、フィードバックするデザインを重視した。「ミニッツペーパーで質問ができ、フィードバックが得られた」や「毎回出される振り返りシートで問いについて考える点」、「周囲とのコミュニケーションが多く取れた点」にあるように、授業の狙いは学生によく伝わっていたと考えられる。
- ・留学生が在籍するグループでは、コミュニケーションをとることに日本人・留学生双方で苦勞しているようであった。
- ・プレゼングループに分かれてから、グループ以外の学生と関わる機会が減ったことを残念に感じている学生もいた。
- ・動画配信で授業内容が再度閲覧できるようにしてほしいとの要望があった。
- ・総合評価は概ね良かったが、以下の指摘があった。より丁寧な（早口ではない、明解な）説明が欲しい、プレゼンテーションスライドに対する助言が欲しい、授業時間外でのグループワークは難しい。
- ・授業で行う活動の意義・目標・授業全体の流れなどを明確に示していた点が良かったという回答がいくつかあった。
- ・説明の時間を減らしてグループワークの時間をもっと長めにしてほしいという意見もあった。
- ・受講生からの意見として「オンデマンドと対面のクラスがあり公平ではないと感じた」という、クラス間での不公平感を感じる意見があった。

- ・プレゼン課題に入る前後でグループを入れ替えるタイミングがあっても良いかもしれない。
- ・授業の中で本授業の意義を繰り返し説明していくことが必要であると考えた。
- ・授業中グループで話し合う時間を昨年度より多く設けた。一方で、やはり「もっと時間があれば」という指摘はあったので、「与えられた環境」の話を共有していけると良いかと感じる。
- ・言語に関する苦勞などをなるべくおさえられるように、SA と協力して介入したい。
- ・授業内容はすべて動画配信し、復習できるようにした。
- ・標準授業デザインの影響とクラス担当教員の教え方・熱意等の影響とが混在しており、改善してほしい。
- ・教員からの解説は難しい部分もあるので、口頭だけでなく文書としても残す必要がある。
- ・授業中のグループワークを充実させる（授業時間外ではソロワーク中心とする）必要がある。
- ・教員からの指導には限界があるため、重要なスキルズは繰り返し言及しつつも、学生らによるピア活動をより具体的に展開できるよう心掛けていきたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・授業内容が分刻みで指定されているが、次の活動に移るときなどにかなり時間がかかるためこちらはタスクをこなすことだけに集中してしまう。授業プランに少し無理があると思う。
- ・たまたまそのような雰囲気だったのかもしれないが、今年はプレゼンテーションの質疑応答で学生の挙手が多かったり、私も積極的に質問を受けたりした。学生からは「最初のレゴのワークで班のみんなと仲良くなれたこと」、「初回の授業で話しやすい雰囲気を作るゲームを行うなど…」といったことなどがあがり、チームビルディングやアイスブレイクが上手くいったのかもしれないとも感じている。
- ・大学に入学して、他学部の学生とグループワークを行うことにとても楽しみを得ている学生が多かった。その一方、馴染めない学生などグループの割り振りを学生情報が少ない（学部・氏名しかない）状況で教員が行う難しさも感じた。
- ・グループ活動を中心とした学習、成績評価であるため、グループ内の関係構築がうまくできたかによって、個々の学習成果や授業満足度にかかなりの差が生じていると感じた。
- ・不登校気味の学生の対策が必要である。
- ・このところ、オンデマンドビデオで授業をやっているクラスがあり不公平だ、との記述が続いている。不公平であるかについては一概には言えないが、オンデマンド授業スタイルが認められるのか、教務委員会ないし初年次セミナーWG で検討すべきではないだろうか。
- ・文献の引用に対してもっと時間を割くべきである。
- ・グループ間で男女比が極端に異なってしまう、それに対して不平を漏らす学生が一部いた。学生の名前から男女どちらかを推定するのが難しくなっている。
- ・生成 AI の利活用法が議論されているが、教員自らが試行錯誤の経験を積みながら考えていく必要があるように思う。
- ・なかなか授業に参加してくれない学生がいたことも事実である。毎年一定数いるので、大学の授業の限界かもしれないが、その影響でグループ活動が停滞することもあり、やはりグループ

編成の難しさは毎年のように感じる。

- ・ SA のサポートもフル活用しながら、グループ内の関係構築に差が生じないように工夫したい。
- ・ 学部・学科毎にくじ引きを使ってグループ編成を行う。もはや男女を区別する時代ではなくなっているのだから、グループ編成において恣意的な部分をできるだけ排除していきたい。
- ・ 生成 AI の利用上の態度を吟味していきたい。

大学と地域

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 概ね学習時間は確保されているが、1 時間以内の学生も一部見受けられた。
- ・ 少ない。学習時間だけでなく、普段から「考える」ことを指導してきたが、オムニバス講義であることも影響していてコマ切れになっている。
- ・ 授業時間外学習時間が「30 分未満」の学生が 15%いる一方で、半分以上が 1 時間以上となっている。レポートの出題内容を改訂したため、やや授業時間外学習の時間が増えたかもしれない。
- ・ 単位の質保証の観点からすれば十分ではないものの、「全くしなかった」という学生がいなかったことは良かった。
- ・ 授業中に積極的に時間外学習を促していきたい。
- ・ レポートが単なるメモ書きでなく有意な情報を含んだものである必要があることを解説したい。
- ・ 事前学習が難しい科目なので、事後学習のみで 30 分以上の課題を課すのは難しい側面もある。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・ 各分野の専門家の視点に立った鹿児島地域に関する講義は、自身の課題の発見にもつながった様子だった。
- ・ 概ね学習成果を得られたと答えた学生が大部分だった。その一方で、有意義な講義話題の提供がある中で全く学習成果を実感できなかった学生もいて、その理由を追求する必要がある。
- ・ ほとんどの学生が「十分得られた」「おおむね得られた」としているが、「あまり得られなかった」「全く得られなかった」とした学生もいたことから、授業運営の方法を見直す必要があると考える。
- ・ 時間の制約があるが、もう少し対面での質問の時間を確保できればと思った。
- ・ 授業配信時のトラブルを解消する努力が先決である。
- ・ 「大学と地域」全体として、どのような目的・目標の授業であるかについての再検討が必要と考える。
- ・ 遠隔の授業をスライドで学生に見せるときに、音声小さかった。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 「鹿児島の良さや課題について複数の分野から考えることができた」との内容の意見が多かった。
- ・ 「受講生が実感する学習成果」とほぼ同じ度数分布になった。自主的な考察ができた実感でき

ることが学習効果を実感させることに繋がるのかもしれない。

- ・ミニレポートの中から面白い意見を教員のコメントをつけて、学生に紹介した。各回の授業後に、学生同士で授業内容について意見交換する時間を少し設けた。
- ・各分野の先生方が質問に対して、丁寧にご回答いただいた。
- ・学生側で取り組んだ自主的考察の好例を、レポートのフィードバックの中で多く取り上げるのが良いかもしれない。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「期末レポートの様式など詳細をもう少し早く教えてほしかった」との意見があった。
- ・「あまり良くなかった」との回答が一部あり、改善が必要だとは思うものの、授業の特性上責任教員ができることに限界があるため改善が難しい。
- ・様々な学部生が集まる中で毎講義グループ活動があったことで、人間関係が広がり、様々な価値観の人と意見交換が出来た。
- ・序盤のうちに、最終レポートの内容について、具体的なことが知りたかった。
- ・同じ講義室に集まって事前に録画したものを視聴する授業であれば、その授業はオンデマンドにして何度も見返すことが出来るようにした方が効果的であると考えた。
- ・学生からの質問を受け付け、返答する時間もある程度確保すると良いかもしれない。
- ・遠隔の講義を流すときは、機材の準備に気をつけたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・「提出期限が他の講義と比べて短かった」との意見もあった。
- ・受講生が多すぎて、学生の反応を確かめながら進められない。
- ・全面的に対面講義形式が復活しただけでなく、Respon を使った質問の受け付けとそれへの即答という新スタイルの導入は、授業改善につながったと実感した。
- ・今回はガイダンスがオンデマンド動画だったので、やはり、ガイダンスは授業内で対面によりおこなった方が良いと感じた。
- ・どのような質問を取り上げるのかによって授業に対する好感度が左右されるはずなので、司会の教員の力量も試されるはずである。

体育・健康

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・1 時間未満がほとんどであった。小テストも課題として与えているのだが、もう少し勉強してほしい。
- ・「全くしなかった」、「30 分未満」が合計 38.8%となり、全体の 1/3 以上を占めていた。レポートも課しているが、日常的な授業時間外学習の確保ができていない現状がある。
- ・小テストの内容を検討したい。

- ・講義内において、学習したことを実践に移すこと（日常生活で実践すること）の重要性、またそれが授業時間外学習になることの周知を図っていきたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「おおむね得られた」以上が97%であったが、「あまり得られなかった」以下が2名いた。
- ・「十分得られた・おおむね得られた」の合算は98.7%であった。部門内での講義FDやmanaba教員用コース、授業計画案の作成等の効果が見られていると考える。
- ・もっと質問しやすいような授業を工夫したい。
- ・今年度から完全対面での講義となっているが、担当教員での情報共有や授業改善等を行いながら、学生が学習成果を実感できるよう、更なる工夫を図っていきたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「おおむね促していた」以上が92%であったが、「あまり促してなかった」以下が5名いた。
- ・「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算は、96.8%であった。部門内での授業改善の効果が見て取れる。また体力測定を行い、その結果を分析することで、より自分自身の課題を捉えることができる授業内容であったことも、結果に反映されていると考える。
- ・もっと授業の中で声掛けをしたい。
- ・必修単位として、理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の情報共有等を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように、継続した促しを図っていきたい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「おおむね良かった」以上が94%であったが、「あまり良くなかった」以下が3名いた。
- ・「とても良かった・おおむね良かった」の合算は、98.1%であった。学生のコメントからは、「今後の健康維持のための運動法などを知れた」、「楽しむを重視した授業で、運動が苦手な私でも楽しく上手に取り組めた」、「授業を通して友達が増えた」など、体力測定から自分自身のデータを分析・評価することで、生涯の健康をとらえるきっかけとなったことや、身体を動かす楽しさを理解してコロナ禍で希薄化した交友関係を築くきっかけとしても、この講義が寄与していることが考えられた。
- ・もう少し総合評価が上がるようにプリントの作成に工夫したい。
- ・総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善等を行っていきたい。特に、日常生活への還元という点において、より学生への促しを図っていきたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・遠隔授業では音声なしビデオなしのため、相手がどのような態度で取り組んでいるのかわかりにくい。
- ・「体育館が暑くて危険なことがある」、「暑すぎて授業に集中できない時があった」など、施設面で夏季の実習実施方法について、より検討していく必要が考えられる。

- ・休憩時間をしっかりと確保すること。また熱中症対策等安全対策に関する話をオリエンテーションや各授業内でも伝え、学生が自分自身の安全を確保しながら授業に取り組むことができるように学生への促しを図っていきたい。

情報活用

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・平均1時間程度であったので、もう少し課題を増やしても問題ないかもしれない。
- ・実習が多くあり、比較的授業外での時間において学習していると考える。
- ・学生により大きなばらつきがあった。これは、学生により現状のパソコンスキルに差があるからだと思う。
- ・アンケート回答学生のほとんどが「30分以上1時間未満」であるが、2時間以上を費やしている学生もおり、PCへの慣れの問題かと思われる。
- ・1時間以上授業外学習を行っている学生が30%程度であり、もう少しこの割合を増やしたい。
- ・週平均時間は0.5~1.5時間であった。授業が実践的であること、また基本的に内容が授業時間内で理解できるレベルであることから、時間として適当だと思われる。
- ・タイピングが苦手な学生でも、予習・復習(宿題)に毎週1時間程度の作業を考えていたので、概ね狙い通りの自宅学習時間が確保できていると思う。
- ・授業時間外の学習時間については昨年よりも増加しており、「30分以上1時間未満」が52%、「1時間以上1時間30分未満」が11%であった。
- ・比率的には全体平均と同じ「30分以上1時間未満」が一番多かった。レポート作成時間を考えれば妥当の回答と思うが、半面予習の時間が含まれていないと考えられる。
- ・毎週課題を課したことで、概ね1時間から2時間の学習時間を使っていることが確認できた。
- ・レポートを増やすか、あらかじめ予習課題を公開しておいて授業で復習させる形を検討している。
- ・毎回授業の最後に資料を熟読し予習してくるよう指示しているが、予習を強制するのは困難である。
- ・課題の難易度を毎回平均化する必要がある。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・情報活用は今後の授業や社会に出てもすぐに役立つ知識ばかりであり、実感が湧くのではないか。
- ・ExcelやWordなど今後も使用していくものという認識があり、その利用法を学んでいるという実感はあるように思われる。
- ・90%以上が学習成果が得られているという回答があり、次年度も続けられるようにしたい。
- ・1年生でありパソコンを触ったことがない学生が比較的多いことから、丁寧に一つ一つ基礎を学べる環境を作ることで2年次以降も自信を持って使えるようになる。
- ・9割以上の学生が「十分得られた」「おおむね得られた」と回答しているので、良かったと思う。
- ・この項目の結果は、「十分得られた」が56%、「おおむね得られた」が41%であり、ほぼ全員が

肯定的な回答であった。

- ・「十分得られた」の回答が 62.7%と、全体平均の 54.6%を大幅に上回った。なるだけ無駄を排除し、将来有用な技術を中心に指導したことが効果的だったのだと思う。後は、シラバス通り忠実にやることも効果があったのだと推測する。
- ・入学前から IT 機器に慣れ親しんでいる受講生とそうでない受講生の間では学習成果の違いはあるが、特に後者に対して成果があげられたと思う。
- ・単位取得できなかった学生が例年の倍以上いたので、全員が取得できるように TA によるフォローなどをしたいと思う。
- ・コンピュータの習熟度がまちまちなので、平易なことから高水準の内容まで網羅する必要がある。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・実習課題中心の演習により、自主的な考察の機会があると考える。
- ・授業の履修者同士の会話の機会を増やした。
- ・講義中に自ら課題に取り組む形式なので、この点については問題なかったと思う
- ・PC 操作は個人差が大きいため説明は最小限にしており、不明な点は個別に聞くように促している。しかし、例年説明不足との意見がある。
- ・90%を越えており、毎年データをまとめてプレゼンテーション発表を行わせているのが極めて効果的であると思われる。今後も続ける予定である。
- ・TA がしっかり回ってみることが重要な点の一つ。学生からすると TA は話しやすく、また近い視点で相談に乗れるので、1 年生も理解が進み積極的に授業の内容に取り組む足がかりになっていると思われる。
- ・受講生を 4~5 名のグループに分け、自由に相談しながら課題に取り組むようにしたところ、楽しく積極的に取り組んでいたのが良かった。
- ・「積極的に促していた」の回答が 59.7%と、全体平均の 49.8%を上回った結果となった。15 回の授業中 9 回は小テスト及びレポート課題を課しているため、それがこの結果となったのだと思う。
- ・毎週の課題で自分の興味あることの整理や検索を促したことから、おおむね自主的に取り組んだようだ。
- ・入学前から IT 機器に慣れ親しんでいる受講生とそうでない受講生とも、それぞれが自主的に取り組んでくれたと思う。
- ・積極的に質問しやすいように室内を巡回し、こちらからも声をかけている。
- ・できるだけ学生同士の交流があるように工夫を続けたいと思う。
- ・課題の内容が多岐にわたることからチェックが大変であるものの、この取り組みは継続したい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・共通教育棟のスクリーンが小さくて見辛いと意見が多かったので、zoom 等で各学生のモニタにパソコンの操作画面が表示されるようにするか、細かいクラス分けを検討する必要がある。それ以外の評価は非常に高かった。

- ・パソコンを操作しながら行う課題については解説のスピードが早い。
- ・初年次の授業には大学のことを知る、慣れる、馴染む、という役割もある。なるべく学生の顔を覚えたかったので座席を固定して授業をしていたが、アンケートに「座席を変えられた方が友達が増えたと思う」という指摘があった。
- ・難易度が適当であったという意見と簡単すぎたという意見があった。全員を満足させることは難しいことだが、できるだけバランスが取れるように努力した。
- ・TA や教員と気楽に話せるような雰囲気作りを心がけており、質問などもしやすくしている。今後も続けたい。
- ・多くの学生がコメントを記載しており、その内容の大部分は、授業に満足している、という回答であった。学生のレベルにあった内容やペースで進め、将来的に使えると学生が実感できる授業が好ましい。
- ・レポートの書き方、添え状の書き方、プレゼン資料のつくり方、メール連絡、実験のデータ処理など大学生活ですぐに使えるような内容を中心に講義をしたので、満足度が高かったのかと思う。しかし、Word や Excel の操作方法については細かく説明する時間がとれず、満足度を下げているのかなと思った。
- ・「とても良かった」の回答が 58.2%と、全体平均の 54.3%を上回った。「あまり良くなかった」と回答した者が 1 名いたが、その改善内容としては「初心者向けの表現ではなく、説明にも専門用語を多用している点」であった。
- ・概ね評価は高いが、一部の受講生には不満があるようだ。習熟度の違いから、あまりにも平易な内容ととらえる受講生が存在する。少々難易度の高い内容も加える必要がある。
- ・一つ一つは理解できていても、時間が経つとできなくなる内容もあったので、今後は繰り返しを増やして、「分かる」から「できる」になるような工夫をしたいと思う。
- ・なるべく専門用語は多用しないようにしている。少なくとも事前に資料を読んで、わからないところは自分で調べておけば問題はないと考える。実際に、他の学生においては「説明が分かりやすかった」と回答が散見された。
- ・学生のスキルレベルが異なるので、TA を含めた複数の教員のフォローアップが必須だと思う。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・パソコン自体を使うことに慣れていない学生が増えているように感じる。共通教育棟 1 号館のスクリーンが小さすぎる。
- ・ハイブリッド授業とオンデマンド授業のアナウンスが直前になっていた。アナウンスについてはより早く行う。
- ・受講生の中には他の受講生と無理に交流させられたと感じているのが意外だった。学部の IT クラスの内容との差別化も必要だと気付いた。
- ・「情報 1」が共通テストで必須となる令和 7 年度に向けて、内容をどのように変えるか変えないか悩んでいる。年々ラップトップを持ち込んで自分の PC で作業をするなど、PC に慣れている学生の割合も上がっているように感じる。他方、いまだに PC に苦手意識が強く、今後は危ぶ

まれる姿勢の学生もいる。令和7年度を入試以降は全体のPCスキルが底上げされるものと思われるが、しかし、取り残さないことも重要で、これまで行ってきた授業内容を大きく変えるのが良いのかどうか悩んでいる。

- ・講義中、物足りなさを感じているであろう受講生の姿があったことは否めない。受講生の知識の差を考慮すれば、学科等の別ではなく能力差に基づいた編成も可能ではないか。
- ・化学系であるためか、他学科よりもコンピュータについての知識に乏しい学生が多いため、そのケアが極めて重要であると感じている。授業難易度の調整や質問受付によるサポートを手厚くしたい。
- ・数理・データサイエンス①「情報倫理とセキュリティ」であるが、3回目の授業で行なったところ、ウイルス対策ソフト、Office365など学生に役立つ情報が多く反応もよかったので、昨年より教育効果が高くなったと感じた。
- ・質問項目1.6「この授業で特に良かった点は何ですか」において、多くの学生から、「PCの基本的な操作を学べた、今後役立つ知識・技能などを得られた、TAに質問できてよかった…」などの感想が多くあった。
- ・大雨の際、対面と遠隔を自由に選択できるように授業形態を対応したが、それが良かったという意見が散見された。「体調が悪い日にも家で受けられるように15回の授業全部リモートに対応して欲しかった」との回答があったが、これは切実な要望だと思う。また、ある学生から「対面授業の必要性が1番感じられなかった」との回答があったが、本授業はいつでも遠隔に切り替えられるよう対応しているためである。
- ・出席や課題の提出状況が良く、まじめに受講してくれた。ただし、あまりにもコンピュータや情報処理の習熟度が違いすぎることで、授業の進行が難しかった。習熟度別にある程度区分し、それぞれにふさわしい内容を講義することが望まれる。
- ・数理・データサイエンスの内容が更新されない。学生は興味なさそう。どういった内容に興味を示すか学生にアンケートを回答してほしい。
- ・高校生でPCスキルをある程度習得している学生などについては、学部横断でまとめるなどしてクラス分けを検討してもいいのではと思った。
- ・概ね分かりやすいとの感想だったが、一部説明が速いとの感想もあった。学生の理解度に合わせた説明のスピードに留意する。
- ・一部の学生から「動画が長い」と言われたので、授業の中で使い方を工夫したいと思う。
- ・パソコン操作は個人のレベルの差が大きい。できない学生にとっては内容が難しく感じ、不安だから教室で受けたいであろうし、できる学生にとってはわざわざ教室で受けるほどの難しい内容ではないと推測する。「情報活用」こそ、対面と遠隔を選択できる授業形態にすべきと考える。
- ・TAの募集をなるべく早い時期に行なうことで、早めに授業の準備ができればよい。

英語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・バラツキが大きかった。かなり学習した学生がいた一方、予習・復習が足りていない学生もいたようだ。
- ・学生は自分の能力に合わせて、十分な学習時間を取り組んだと思う。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・ The large majority of students have expressed high learning outcomes from the course. I feel that the students get a good deal of satisfaction from delivering a good presentation.
- ・ 学習成果を得られたと感じる学生が多かったようだ。
- ・ 最終的に学術的なプレゼンテーションを行うという、学習成果を実感しやすい科目でもあり、それを達成できたと感じたようだ。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 教師側からの指示は大枠だけにし、グループ活動を通して互いに協力して学習活動に参加することで、ある程度自主的に取り組めていたのではないと思われる。
- ・ グループ活動で意見を交換する機会なども提供したが、全員が自主的な考察を実感するような授業を目指したい。
- ・ I am very satisfied with this result. I think it shows that the focus of the classes is clear to the students and they are actively engaged in each class.
- ・ 「積極的に促していた」、「おおむね促していた」を合わせるとほぼ100%であり、受講生自身が各自考えながら取り組む姿勢の必要性を感じ取ったようである。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ 対面授業時の活動と宿題や数回実施した遠隔授業時の内容を明確に分けて運営できたという実感があり、受講生にとってもそれが良かったようだ。
- ・ I am satisfied with the positive results here as most students expressed high satisfaction with the course content.
- ・ 回答者には「とても良かった」と「おおむね良かった」の評価しかないので、概ね満足していたと思われる。発表者の英語をチェックしてほしいという要望が1名からあり、あと1名コメントを記していた受講者がいたが、特にないという記述が多くだいたいは良かったと感じていたようである。
- ・ グループワークが良かったという声がある反面、話し合いの時間が少ないという声もあった。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・ The student comments for this course were very positive. There was a lot of active learning conducted, and this appealed to this large class very well. The class size exceeded 40 students. I think a reduction in 1A, 2A class numbers is needed in future.
- ・ 授業ではテーマを与えて英語でレポートを書くようにしたが、採点の仕方に不満を抱く者もい

た。受講生の履修態度は概ねまじめだった。レポート採点時の評価基準について事前に示すようにしたい。

- ・ 学生個人個人の学力差が大きく、指導に苦勞する点が多い。今後は小テストを実施してより細かな指導を試みたい。
- ・ Many students reacted positively to classes being conducted only in English, which is encouraging. I think conducting English classes this way is essential for showing students that they are capable of coping in an English language environment.
- ・ 以前は、教師側からのアドバイスをもう少ししていたのだが、それが多くなるほど受講生は受動的になり、退屈さを感じるようなので、互いにアドバイスし合うよう任せた方がより積極的に学習していくものだと感じさせられた。学習の雰囲気をよくすることと、学習者の主体性を今後も大事にしたい。グループ活動には、円卓テーブルの方がより適切かもしれない。

日本語・日本事情科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 「30分以上1時間未満」から「2時間以上3時間未満」の間で回答が分散しており、以前より課題としていた「予復習の負担が大きい学生がいる点」について、引き続き留意が払われていると考える。
- ・ 想定内の学習時間におおよその受講生が該当しているが、若干見られる分散傾向は、受講生の日本語能力差によるものと思われる。
- ・ 学習時間が「4時間以上」と「1時間未満」の受講生に対しては学習状況を可能なかぎり詳しく把握し、配慮しながら対応する。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・ 学習者側から見ても一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。
- ・ 「十分得られた」「おおむね得られた」が各50%（各4名）で、全員から肯定的な評価が得られた。
- ・ 受講生の関心と日本語能力に合わせた学習内容選びに努め、小レポートなどによる個別指導も継続していく。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 授業時間中における自主的な取り組みを促すことにより、一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。
- ・ 「積極的に促していた」（62.5%：5名）「おおむね促していた」（37.5%：3名）で、全員から肯定的な評価が得られた。
- ・ 受講生の能力・興味関心・性格に沿った促しを工夫していきたい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」が86%、「おおむね良かった」が14%だった。自由記述では「少人数授業のため、学生一人一人が丁寧に指導を受けられる」「日本語の資料や文章を読むとき、重点を掴むことができるようになり、文章を読む能力が上がった」などの記述があった。
- ・「とても良かった」(87.5%：7名)「おおむね良かった」(12.5%：1名)で、全員から肯定的な評価が得られた。宿題が少し難しいという指摘が1件あったが、当該者の日本語能力によるものであると思われる。
- ・日本社会理解だけではなく、自国および友人の国の理解をするための活動（話し合い・小レポート作成）は複数の受講生から評価を得ているので、引き続き行っていきたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・少人数のクラスであったため、学生が提出した課題や文章について、修正・指導することができた。途中、欠席がちになった学生に対して連絡を取り、個別指導を行った結果、後半は出席できるようになった。
- ・授業内容を受講生の希望をもとに決定するやり方は評価を得ているので、今後も続けたい。例年より日本語能力が低い学生が複数名いたが、受講生の履修態度は皆よかった。
- ・外国人留学生がつまずきやすい点にフォーカスし、クラスサイズを活かして、できる限り個別に指導できるよう引き続き工夫したい。
- ・受講生の履修態度は大多数はよかった。しかし、1名の受講生は、グループワークに参加したり担当者の指示に対応したりすることなく、授業とは関係のないことをし続けた。
- ・日本語能力差が顕著なクラスで、個々の受講生がより充実感が得られる授業の創出を工夫していきたい。
- ・問題行動の目立つ受講生については、他の日本語日本事情科目担当者と情報共有をしながら、適切な指導をしていきたい。それでも改善されない場合は、その支援を修学支援室に求めようと思う。

初修外国語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・回答者（約半数）のうち56%が1時間以上学習をしている。予習復習の時間として必ずしも十分でないが、授業の理解度を勘案すると基本的な学習の習慣は身につけていると評価できる。
- ・manabaでのe-learningを課したため、授業外学習にしっかりと取り組んでいる学生が多く見られた。
- ・理解度を見ながら、適宜学習時間を増やすよう指導する。
- ・課題を多く出したり、小テストを実施するなどして、授業時間外学習の増加を図りたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・78%が「十分得られた」、17%が「おおむね得られた」と回答しており、これは教員の評価にはほ

ば一致する。

- ・学習効果を得るためには復習や繰り返しが特に大切であるということを、これからも示していきたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・自発的に挙手を求めて解答させたり、正答を覚えるのではなく、正答に至るプロセスに積極的に参加することを評価する教員の取り組みが反映されたものとする。
- ・ポートフォリオを活用するなどして、自己の学習管理や振り返りができる体制をより充実させていきたい。
- ・テキストの例文を応用した即興的な問題を今以上に出すなどして、考えさせる時間を増やしたいと思う。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ドイツの歌、文学、生活などに触れられることが評価されている。
- ・すべての学生から「とても良かった」「おおむね良かった」という肯定的な評価が得られた。丁寧な板書と説明でわかりやすかったという回答が複数あった。
- ・ドイツという国への関心も深めるようにしたいと思う。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・今年から外部 DVD プレーヤーを投影するための教室の接続が HDMI のみとなった。一方で便利な面もあるが、語学の授業では映像教材の使用も必要である。ブルーレイディスクプレーヤーの教室配備をお願いしたい。
- ・スタート時は同じでも、授業が進むにつれ次第に学力差が開いていくのを感じた。課題の出来や提出状況があまり良くない学生は、やはり理解度や授業への能動的な参加という点で芳しくないように思われる。
- ・個別指導をより充実させてサポートする必要がある。

異文化理解入門

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・アンケート結果から学生間で学習時間に差異があることがわかる。課題の負担について再検討する。
- ・レポートを課したり、授業外学習の案内を manaba に示したこともあり、以前より学習時間が増えているように思われる。
- ・学生がより自習しやすいよう、図書だけでなく良質な web サイトも紹介するようにしたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・学生の学習成果は実感されているようだが、実感できていないというコメントもある。これら

のコメントも参考にしたい。

- ・概ね成果を実感しているようである。
- ・専門的に学びたい学生も少数いるようなので、適切な参考図書を紹介するよう努めたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・アンケート結果によれば促しが十分であったようであるが、異なるコメントもある。課題内容について興味を持って取り組みやすくするために、難易度を含めて再検討したい。
- ・動画授業なので中だるみしないように上・下と分けたり、クイズなどを挟むなど工夫をした。動画をすべて視聴しないと課題提出できないようにした。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・課題の難易度と形式に対して改善を求めるコメントがあった。動画の視聴を前提とした課題であるため、巻き戻しての再生が負担となったようだ。課題形式について機器操作の負担を軽減するよう工夫したい。
- ・動画の音の大きさが指摘された。可能であれば新機材の購入を検討したい。
- ・さまざまな文化を学べることについて肯定的な意見が多く見られた。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・受講生の半数以上は公開・提出期間の最終日に授業視聴しているようである。授業（動画）時間内で学習効果が期待できるような工夫を検討したい。
- ・真面目な学生とそうでない学生の格差がある。
- ・一部対面を望む声もあるものの、むしろオンデマンド方式についてよかったとする意見がかなり多く見られた。授業内容や教員に応じて、対面とオンラインの利点を生かせるような授業形態にしていきたい。

教養基礎科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・人文社会科学分野（選択科目）においては「30分以上1時間以内」が31.1%、「1時間以上1時間30分未満」が21.3%であり、半数以上の52.4%で十分な時間を確保する一方、「全くしなかった」という回答も12.5%あり、今後改善の余地がある。予習・復習のポイントを明示したい。
- ・「30分未満」の学生が30%で、1時間半未満の学生が41%であった。事前配布している資料を事前チェックしている様子がうかがえる。今後もできるだけ早めに配布資料を公開することで、自習時間を増やしたい。
- ・manabaでe-learningを課したため、授業外学習にしっかりと取り組んでいる学生が多く見られた。
- ・「30分以上1時間未満」の回答が29%と最も多く、次に「1時間以上1時間30分未満」が25%であった。自然科学分野(選択科目)の科目全体と、ほぼ同様の傾向であったように思う。一般に

授業時間外学習の週平均時間は 4 時間であることが理想的なので、増やすことができるような工夫をしたい。

- ・授業に教科書を利用している。授業前に必ず読んでくることをお願いしている。目を通すのに必要な時間は確保してほしい。
- ・授業時間外学習の時間はほとんどが 1 時間未満であり、特別に指示する必要がある。各教員からは学生の自主的な学習への促しはあるものの、オムニバスで毎回完結する授業内容であるため、時間外に学習意欲を向上させるまでには至らなかった。
- ・昨年も同様であったが、授業外でのレポートを課しており、時間外学習を「全くしなかった」との回答が 11 人 (5%)、「30 分未満」が 45 人 (22%) もいることに疑問を覚える。少なくとも 30 分以上を要するレポート課題を出している。アンケートにどの程度真剣に回答しているのか疑わしくなる。
- ・毎時間の小レポート作成のために数時間はかけているようだ。「400 字以上」と設定したが、予想以上に時間がかかっている。
- ・少ないように感じるが、学習時間だけでなく普段から「考える」ことをしてきたことが最終レポートからわかる。
- ・授業後に各教員が「振り返り」のレポートを課しており、その課題の出し方は各教員が工夫して試行錯誤している。その情報を共有してよりよいものにしていく。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・人文社会科学分野（選択科目）においては「十分得られた」が 49.8%、「おおむね得られた」が 44% であり（計 93.8%）、よい水準が達成できていると思われる。
- ・「十分得られた」学生が 64%、「おおむね得られた」学生が 34% であった。引続き、学生が満足する講義内容にしたい。
- ・「十分得られた」の回答が 49% と最も多く、続いて「おおむね得られた」の回答が 45% であった。自然科学分野（選択科目）の科目全体では、「十分得られた」が 45.5% であったことを考えると、平均を上回る評価だったと考える。引き続き高評価を持続できるよう、さらに内容を高めていきたい。
- ・遺伝は高校生物で履修したものもいる。履修したものにとっては復習となり、さらに詳しく説明するため学習効果は高い。しかし、初めて履修するものにとっては高校レベルであっても難しいとの感想を聞く。初めての学生には授業前の教科書読みを強く言っている。
- ・第 1 回の授業以前に取ったアンケートでは焼酎に対してネガティブな意見が多かったが、15 回の授業として焼酎の魅力を感じた学生が大半を占めた。
- ・小レポート作成の過程で、通常の座学授業よりも知識が身についている。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・人文社会科学分野（選択科目）においては「積極的に促していた」が 55.5%、「おおむね促していた」が 33.3% であり（計 88.8%）、よい水準が達成できていると思われるが、さらに数値を上

げるべく改善の余地がある。より積極的な促しを行う。

- ・グループディスカッションで、いろいろな人と交流できることが良かったという意見が多数見られた。また、書籍や授業に関係する映画の紹介などが好評であった。それから、前回のアンケートを紹介することで、他人の意見に触れられたり質問に回答していたことを評価する学生が多かった。
- ・「積極的に促していた」が43%で最も多かった。自然科学分野(選択科目)の科目全体では40.4%であることを考えると、平均以上に授業時間中に講義内容に対する自主的な考察・取り組みができていたと考える。ただ、「あまり促していなかった」が18%あり、これは科目全体よりも高いことについては改善していきたい。
- ・少しでも遺伝に親しめるように自分の行っている実験を紹介したり、その画像を見せている。実際にイネを栽培している農学部附属農場の実験圃場を見に行くことを勧めている。
- ・毎回授業時間内にレポートを提出する方法であり、熱心に作成している学生がほとんどで、疑問点や自分なりの見解を記述している内容も多かった。
- ・授業後半に小テストを実施することで、講義の振り返りができていると思う。
- ・ノートを沢山とる必要がないように、授業内容の資料はすべて事前公開している。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・人文社会科学分野(選択科目)においては「とても良かった」が半数以上の55.4%、「おおむね良かった」が39.8%であり(計95.2%)、よい水準を達成していると思われる。指摘があれば丁寧に対応する。
- ・グループディスカッションをもっと増やしてほしいとの声があった。グループディスカッションは講義内容の関係で5回ほどである。代わりに、次回アンケートの公開で他者の意見に触れる機会を設けている。
- ・完全オンラインで実施したが、満足度は高く、ブレイクアウトルームでのさまざまな人との会話や、アプリを使った学習ゲームへの肯定的意見が見られた。
- ・「とても良かった」の回答が53%と最も多く、「おおむね良かった」が42%と続いた。自然科学分野(選択科目)の科目全体では、「とても良かった」が39.6%、「おおむね良かった」が53.5%であったことを考えると、平均を上回る評価だったと考える。
- ・集計結果に加えて、自由記述欄にも好意的な内容が多く、学生の満足度は高い。
- ・授業アンケートでも、鹿児島大学ならではの講義であり受講を希望したとの意見や焼酎について詳しく知れた点、特に芋焼酎について学べたのは鹿児島の風土とも関わりがあることなので面白かったなどの意見があり、鹿児島大学の特色ある講義を行うことは意義深い。
- ・教員自らの体験を例示したことが評価されている。
- ・総合評価は良好で「わかりやすく素晴らしかった」、「この授業を受講してよかった」との感想が見られ、満足度が高かった。今後も身近な例をたくさん取り上げ、わかりやすい授業の継続を心掛けたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・障害児教育という分野を様々な学部の学生に引きつけることの難しさを感じる。また、最終レポートは、理工系の学生にとってやや不利になる傾向がある。遠隔授業だからこそその講義ができていると思う。また、履修態度は毎回のアンケートで把握しているが、取り組み度合いに学生間の格差がある。全学部に引きつけた内容にしているが、もっと理工系の学生向けの内容を取り入れたい。
- ・昨年度から授業中に manaba の小テストを 2 回行うようにしたところ、高評価のコメントが多く、今後も続けたい。また、各回の授業を zoom で動画として記録し manaba でアップロードしておいたところ、これについても評価が高かったので今後も継続したい。
- ・最終課題（各教員が行なった講義から 1 つ選んで、掘り下げた考察を求めるもの）に関して、ChatGPT 対策も考えての課題提示となった。
- ・毎回授業時間に作成して提出するレポートの評価（評点）の平均が最終評価であるため、遅刻者や途中退室者はほとんどいなかった。多くの教員が厳正に評価しているため、欠席が多くなると単位取得が困難となっている。毎年、最初の授業回にこのポイントを力説している。
- ・zoom での講義から次年度以降は対面に切り替える予定である。
- ・受講生が多すぎて、学生の反応を確かめながら講義することができない。
- ・「スライドの進みが早い」「難しい」「一方通行の授業」といった旨のコメントも見られた。レベルを少し抑えつつ、授業中に取り組めるような課題についても検討していきたい。

基礎教育入門

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・概ね平均的であり、演習問題を課していることによる効果と考えられる。
- ・最も多かったのは「30 分以上 1 時間未満」の 40.3%で、1 時間以上と回答した学生は 32.5%であった。昨年度は 41.7%の学生が 1 時間以上の学習時間を確保していたことから、今年度は学習時間が減少したことが課題として残された。授業時間外学習の時間を増やすために、予習、復習の徹底を促したり、具体的な指示をしたりすることが必要であると考えられる。
- ・1 時間未満の学生が 63%、1 時間以上の学生が 37%であった。妥当なところだと考えている。
- ・回答学生の週平均授業時間外学習時間は約 2 時間であった。学生によって授業内容の理解に要する時間に差があるため、一概に多いとも少ないとも言えない。学生の理解度に応じた授業内容・課題を検討する。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・効果を実感できていない者が 20%ほどで、他の科目より突出して高い。これらの受講生への対応方法を、e-learning や補習教育の利用を促すことを含め、担当教員間で話し合いたい。
- ・96.1%の学生が「十分得られた」または「おおむね得られた」と回答しており、学習成果はほぼあったと考えられる。来年度の授業でも学習成果が得られるように授業内容を工夫していきたい。

- ・「十分に得られた」と「おおむね得られた」の合計で90%になっているので、学習効果はあったと考える。
- ・アンケートに回答した27名中1名を除いて学習目標を達成したとの回答であった。1名については理解が不十分であると感じていた。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・98.7%の学生が「積極的に促していた」または「おおむね促していた」と回答しており、授業中に自分で考えることの大切さを繰り返し説明した効果が表れたと考えられる。受講学生の自主的な取り組みを引き出せるように、今後も授業改善に取り組んでいきたい。
- ・講義中にレスポンドで問いかけをしたので、講義中の取り組みはできていたようである。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「あまり良くなかった」が10.6%と高かったが、これは授業内容を十分理解できなかったことを反映しており、進度が早いとの指摘を含め、高等学校で化学を履修して来なかった受講生の意見と思われる。これらの受講生への対応方法を、e-ラーニングや補習教育の利用を促すことを含め、担当教員間で話し合いたい。
- ・100%の学生が「とても良かった」または「おおむね良かった」と回答した。水産学部生のほとんどは生物志向が高く、物理を苦手とする学生が多い。水産学部における物理学の重要性を丁寧に説明しながら授業を行ったことで、学生たちは本授業に対して一生懸命に取り組めたのではないかと考えられた。
- ・授業内容について、満足する学生と不満に思う（難しいと感じる）学生とで意見が別れたように感じる。これは学生の当該科目に対する素養によるところが大きいと感じている。このギャップを埋めるための質問や要望には積極的に応じており、その点は評価されたように感じる。
- ・「先生の説明がとてもわかりやすく、少しの復習ですぐに内容をつかむことができた」、「声が聞こえにくく、理解しにくかった」という指摘があった。
- ・「授業形態がよかったと思う」、「丁寧に説明してくれる」、「具体的な問題の解き方を教えてほしい」とのコメントがあった。解説時間をもっと作って対応したい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・多くの学生は学習習慣がきちんと確立されておらず、自ら学ぶ意欲や努力をばらうことを厭わない学生はごく少数であると見受けられ、非常に危惧している。一科目、一教員でどうこう出来る程度の問題ではない。
- ・学生の理解度を毎回確認するために、すべての授業を対面形式で開講するとともに、授業後にはresponを用いて質問を受け付け、それに対して丁寧に回答するようにしたことが良かったのではと考えられた。
- ・最初から放棄していた学生を除いて、出席率は良くresponにもきちんと答えていたので、問題はなかったと思う。

- ・ 何度か遠隔授業を実施したが、対面授業に比べて出席率が悪かった。対面の方が理解度が良いという意見があった。出来るだけ対面で実施するが、やむを得ず遠隔とする際にも退屈にならない工夫を検討する。
- ・ 宿題の解説時間を多めに作るのは難しいが、重要な宿題の解説は必要だと思った。

実験

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 2時間以上4時間未満が57%と最も多かった。実験授業の特質上、レポート作成が課されているためと思われる。また、ガイダンスの段階で実験に取り組む際の予習を促していた。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・ 「十分得られた」(71%)と「おおむね得られた」(29%)で合計100%となり高い評価であることから、受講生の多くは学習成果を実感できたものと思われる。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 「積極的に促していた」(86%)、「おおむね促していた」(14%)合計100%で、受講生は教員からのメッセージを有意に感じていた。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ 「とても良かった」(57%)と「おおむね良かった」(43%)で合計100%となり評価は高かった。ほとんどの受講生が内容に対して高く評価していた。一方で、受講生からの意見として「オンデマンドと対面のクラスがあり公平ではないと感じた」というコメントがあった。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・ 学生実験は教員免許取得希望学生に向けて開講されるため、個々の学生の勉学に対するモチベーションは高いと思われる。このため、授業に対する評価も高かったと考えられる。

教養活用科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 「全くしなかった」と「30分未満」の合計が44%で、昨年比で4ポイント減少したので、受講生の学習時間は増加している。授業時間外にゆっくりと考える課題を少しずつ増やしたいと考えている。
- ・ 30分から1時間半という回答が5割、30分以下が4割弱だった。中間レポートや最終レポートの準備時間をカウントしていない学生もいるのではないかと考えられる。
- ・ 「30分以上1時間未満」(36%)の学生が最も多く、次いで「30分未満」(30%)、「1時間以上1

時間 30 分未満」(12%)であった。概ね、しっかりと学習していると思われる。これまでと同様に、授業前日までには講義資料を manaba へアップロードし、予習を促すよう対応していく。

- ・毎時間の小レポート作成のために数時間はかけているようだ。「400 字以上」と設定したが、予想以上に時間がかかっている。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」が昨年比で 8 ポイント増加した。
- ・「十分得られた」、「おおむね得られた」という回答が多かった。「あまり得られなかった」と回答した学生から「若干話すスピードをゆるめてほしい」という意見があったので、今後気をつけたい。
- ・「十分得られた」(42%)、「おおむね得られた」(52%)と、ほぼすべての学生が学習効果が得られていると回答しており、良かった。
- ・小レポート作成の過程で、通常の座学授業よりも知識が身につけている。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・授業内容について「積極的に促していた」が昨年比で 4 ポイント増加した。アクティブラーニングの時間をより増やすことで、一層の自主的な考察に取り組ませたいと考える。
- ・事後学習用の小テストを毎回作成し、授業内容を復習しやすいようにした。また、学生同士で、考えたことをアウトプットする時間を設けた。
- ・「積極的に促していた」(27%)、「おおむね促していた」(50%)と回答しており、良かった。ただ、昨年度は「積極的に促していた」が 41%であったので、オンラインから対面に授業方法が変わったことが何かしら影響しているのかもしれない。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」が 2 ポイント増加し、「とても良かった」、「おおむね良かった」の合計も昨年比で 1 ポイント増加した。今後も受講生のキャリア形成に資する教育コンテンツを充実させていきたい。
- ・毎回のミニツッパパーでよく考えなければいけないことが多々あったため、非常に復習に役立った。
- ・授業形態として、学生の意見を毎回紹介するという形で意見を受け入れるフォーマットができていることが、自分の意見をしっかり考えて書こうというモチベーションに繋がった。授業のスタイルは概ね好意的に受け入れられているようだが、ディスカッションの際、意見をもつ段階にまで至っていないことがあるという意見もあったので、何らかの形で改善策を考えたい。
- ・「とても良かった」(55%)、「おおむね良かった」(41%)と、ほぼすべての学生が高評価であった。オムニバス形式の授業であったが、普段聞くことのできない医療分野のさまざまな話を聞くことができたことを評価する意見が多く見られた。専門的な内容の講義もあるため難しいとの声があったが、参考図書等の紹介などを行い、自己学習に取り組めるような工夫をしていきたい。

- ・授業の量が多すぎるとの指摘があったが、減らす訳にはいかない。授業資料はすべて公開しているため、それで復習をして欲しい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・大人数のクラス規模であり、一人一人へのフィードバックがなかなか難しい。少しでも個別的指導ができるよう努力したい。
- ・休みがちな学生には、できるだけ早めに連絡したい。
- ・昨年度の遠隔授業形式から対面形式に授業形態が変わったが、しっかりと授業を聞いている学生が多い一方で、後方の席で居眠りしている学生も多少見受けられた。来年度は、学生の授業への参加を促すような試みも行っていきたい。
- ・評価をレポート提出で行っており、授業中にも剽窃などについて説明をしているが、レポートの書き方（引用と剽窃の違いへの理解や、剽窃は"やってはいけないこと"という認識を持つこと等も含めて）について、初年次セミナーだけでなく学年が上がってもきちんと学ぶ機会を増やして欲しい。

高度共通教育科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・本授業はそもそも授業時間数が30時間では収まらず、学習時間の総計は膨大である（授業と授業外との差が明確でない側面もあり、授業外学習時間を聞く質問が本授業には適合しない側面がある）。
- ・集中講義であるため比較が難しいが、大半の受講生が熱心に授業外学習に取り組んでいるようである。
- ・農作業を伴うプロジェクト運営であるため、大変な学習時間を必要とする授業となっている。むしろ、必要学習時間をいかにして削るかが課題だといえる。ただし、フリーライダーの存在は否定できないため、状況把握に努めたい。
- ・本授業は4週にわたる集中講義である。軽重こそあれ、毎週課題を与えており、その課題を前提に次の週の授業が進行するようにデザインしている。特に、最終課題は大変に重く、合計で「30分以上2時間未満」と回答した33%の受講生の存在を疑ってしまう。最終課題はグループ単位で取り組む必要があり、場合によってはグループメンバーのフリーライドに不満を抱いている受講生がいるかもしれない。慎重に現状を見極めたいと思う。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・90%が「十分得られた」と回答しており、良い結果となっている。
- ・本授業に関しては、毎回、ほとんどの受講生が「十分得られた」と回答しており、今回も同様である。
- ・プロジェクト運営によって社会人基礎力等を伸ばす授業であり、おそらく受講生はその伸びを

実感しているのだと思われる。また、実感できるように、成長した部分を教員は大いに評価し、褒めるようにもしている。

- ・本授業の受講生は、必ずしも意欲や関心があって集まってきているわけではなく、プログラム修了のために受講する学生も少なくない。そうしたいわば意欲に欠ける学生であっても、授業を通して学びの面白さを伝えようと努力しており、その結果はまずまず現れているように思う。共同担当の先生方とも協力し、様々な工夫を授業に盛り込んでおり、細かな改善も継続している。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・90%が「積極的に促していた」と回答しており、良い結果となっている。
- ・本授業に関しては、毎回、ほとんどの受講生が「積極的に促していた」と回答しており、今回も同様である。
- ・「おおむね促していた」とする回答の出現が理解できないくらい、学生自身で考え、行動しなければならないように授業＝プロジェクトをデザインしている。また、教員からの働きかけも膨大であり、自発性、創造性を引き出せるように最大限の努力を行なっている。
- ・社会教育のスキル・手法をヒントに、多くの工夫を実践している。その成果が現れているようである。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・100%が「とても良かった」と回答しており、良い結果となっている。
- ・本授業に関しては、毎回、ほとんどの受講生が「とても良かった」と回答しており、若干の低下はあるものの今回も同様である。
- ・教員もプロジェクトメンバーであり、指導しつつも学生と一緒に考え、学んでいる。学生との膨大なコミュニケーションの蓄積、信頼関係の構築にも努力している。そうしたことの結果であると思う。
- ・15回目の授業終了後に、大半の学生が教室に残り、学生同士で、あるいは教員とコミュニケーションを取る傾向が見られる。1時間程度を要することもある。この現象は受講生の協働能力が実際に引き出されたこと、あるいは授業に満足していることを意味していると思われる、毎回嬉しく感じている。授業デザインの大きな変更は予定しないが、細かな改善をさらに進め、より良い授業にしていきたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・キャンパスを小さな社会ととらえており、いきなり社会に出て PBL に取り組むより、まずはキャンパス内で PBL に打ち込む経験をするのは悪くないのではないだろうか。プロジェクト運営型の授業数を多くする必要があると個人的に考えている。
- ・今回は 40 人規模での授業実施であった。これに対し、授業担当教員は 5 名であったことから、なんとか丁寧な指導を継続でき、授業アンケートの結果にも目立った悪化は見られなかった。今後の授業規模の変化は予測できないが、授業担当教員の不足が心配である。

学芸員資格科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・もう少し時間外学習に取り組むよう工夫する必要がある。
- ・ばらつきが大きい、1時間未満の受講生が過半数を超えているのは問題である。
- ・レポートの宿題を多めにしているが、予習復習等に時間を使うように促す。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・90%以上が「十分得られた」、「おおむね得られた」なので今後も維持していきたい。
- ・7割ほどの学生が「おおむね得られた」としており、「十分得られた」としているものは25%程度である。
- ・十分な学習成果が得られるよう、伝え方を工夫したい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「おおむね促していた」、「積極的に促していた」という回答が9割を超えたが、「積極的に促していた」という回答は36%である。
- ・学生が自主的に考える機会をさらに増やし、質の高い考察能力を高めたい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「おおむね良かった」が6割程度で、「あまり良くなかった」と答えたのは一人だけである。グループワークや前回の授業のレスポンスアンケートをもとにした解説は評判が良かった。
- ・学生同士の意見交換の機会を増やすやり方を考えたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・学芸員資格取得には必修であるが、興味が持ちにくい経営について必要性を理解するためには、対面での授業やグループワークが効果的である。
- ・資料のコレクションに興味集中しがちな受講生に経営の重要性を考えさせる授業を模索したい。

公開日 令和6年1月19日
文責 鹿兒島大学共通教育センター
FD委員会委員長 大野克彦